

アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業
第4回専門委員会 議事録

平成22年11月9日
馬事畜産会館7階 会議室

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

定刻になりましたので、ただいまから第4回アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業に係る専門委員会を開催いたします。

この会議につきましては、7月に開催することとしておりましたが、宮崎で発生した口蹄疫の関係から、急遽延期をさせていただきました。皆様には、ご案内まで差し上げたにも関わらず、延期をしまいご迷惑おかけしたことをお詫び申し上げます。

進行役を務めさせていただきます、日本馬事協会参与の栗本と申します。よろしく願いいたします。

本日は委員12名中11名に出席していただく予定ですが、2名の委員が遅れております。

それでは、本日も越しいただいておりますご来賓の方よりご挨拶を頂戴いたします。

農林水産省畜産振興課菅谷課長補佐にお願いします。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

農林水産省畜産振興課でアニマルウェルフェアの担当をしております菅谷と申します。

現在普及啓発をいろいろなところで行っているところですが、ともすれば、アニマルウェルフェアについては、生産者の方が押し付けられるように感じて引いてしまうことがあるように感じています。快適性に配慮した飼養管理を日々の飼養管理で実行していいんだという話をさせていただくと、納得していただけますし、とにかく色々なチェックポイントに気づいていただき、少しでもストレスを減らすことが大切だということが分かって頂ければ良いのではないかと思います。

今回事務局で素案を作っていただきましたが、専門家の方から見てもう少し工夫をしたほうが良いところ等があると思いますので、色々意見を頂いて、生産者の方によく分かっていただけるようなものが出来ればと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

ありがとうございました。

資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

それでは、第1回～第3回に引き続き、座長を北海道大学北方生物圏フィールドセンター近藤誠司教授にお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

この専門部会は、平成21年8月27日、11月9日、平成22年3月5日に開催しており、4回目の開催となります。

後ほど、事務局からも説明があると思いますが、今回を含めてあと2回で指針を策定したいと考えておりますので、委員の皆様ご協力をお願いいたします。

それでは議事に入りたいと思います。

協議事項(1)平成22年度アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業の実施計画について、事務局から説明願います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(資料1、2、3 実施計画について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

ご質問等がありますでしょうか。

なければ、次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
(資料4 1 一般原則について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

今の説明についてなにかご質問等ありますでしょうか。

私から質問なのですが、この一般原則については他の畜種とほぼ同じ書き方になっているのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

ほぼ同じです。

第3回の専門委員会では4の本指針の活用について、乗馬クラブや競馬で活用されている馬を対象としていないということ、分かりやすくしたほうが良いというご指摘をいただきましたので、そこだけは*をつけて書いております。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

少し分かりにくい部分があると思うのですが。

「農場内において」という記載は、私たちは前から議論を行っているので分かりますが、生産者も競馬や乗馬で使用する馬を飼養しているのでは誤解を招くのではないのでしょうか。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

競走馬に対する調教や競走等の強い運動や乗馬クラブなどでの馬の活用については、別に考えるという方向で整理は出来ないのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

「農場内」と記載されているので、農家の方が対象だと分かるのではないかと思います。

*も併せてあるのでこれで良いのではないのでしょうか。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

アニマルウェルフェアの対象がどこになるのかということの話を色々な方にお聞きしましたが、農場から外に出た段階で対象から外れるという話でした。農場という言葉は非常に曖昧なので、はっきりさせたほうが良いと思います。

私はこの文章を見ても、なぜ競馬と乗馬は対象外なのかということが分からないので、良ければ入れていただけたらと思います。馬術であれば、国際馬術連盟で規程がありますし、競馬では別にありますので、難しいとは思いますが、付け足したり説明書きをしたりしていただけたほうが、分かりやすくなるのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

競馬及び乗馬クラブで繋養されている馬は世界的にという説明を入れるのか、もしくはこのままで良いのか、皆様はどのようにお考えでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 事業企画係長 黒崎 和美

馬を生産している農家の方を対象としたいと考えておりますので、これを見れば分かっていたのではないかと考えております。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

競馬や乗馬クラブの関係者は読むと自分たちが対象でないことが分かるのではないかと思います。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

馬の生産は、乗用馬生産や農用馬の生産及び競馬馬の生産等がありますので、馬の生産となると、全ての馬が対象になります。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

競馬や乗馬クラブに行った馬に関しては、飼養者が国際基準に則って、飼養管理してもらうことになり
ます。

いかがでしょうか。

5つの自由の話がありますが、使役馬の正常な行動とは何かということについては国際的にもまだ議論が
なされている状況ですので、このままの記述にするということによいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

それでは一般原則はこれで決定したいと思います。

なければ、2の馬の飼養管理について説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2—①について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

今の説明について何かご質問等ありますでしょうか。

① からお願いいたします。

健康状態の把握とありますが、異常行動は入らないのでしょうか。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

健康状態を常に把握してという意味は、5つの自由に沿って健康をチェックしていくというという意味で
す。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

健康状態のチェックではなくて、状態のチェックでは駄目なのでしょうか。

健康状態という対病気というイメージが非常に強いので。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

一応アニマルウェルフェアとしては、肉体的、精神的な健康状態という表現をします。アニマルウェル
フェアでは動物の健康という表現が良く出てきますので、この表現で適切ではないかと思ひます。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

チェックシートをつけたり、箇条書きにしたりしていただくことは出来ないのでしょうか。

そのほうが分かりやすいと思ひます。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

具体的にどのようなことをしていただいたらよいかということについては、この後に出てきます、「1管
理方法」の中の歯や離乳、分娩等の項目で細かく記述をしております。この①観察・記録の項目では観察と
記録について言及したものになります。

記録のとりかたまではおそらく他の畜種でも触れていませんし、そういうことでチェックシートを作るこ
とは難しいと考えています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

他の皆様はいかがでしょう。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

この記述で良いと思ひます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

馬の取り扱いや馬の管理等、箇条書きをしているときりがないので、そこまでは入らないのではないかと
思ひます。

他になければ②の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
(2-②)について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
質問等がありますでしょうか。質問がなければ次の説明を願います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
(2-③の説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
何か質問等ありますでしょうか。

社団法人日本装蹄師会 装蹄教育センター 装蹄研究課長 森 達也
蹄鉄を装蹄するとありますが、蹄鉄を「装着する」と記載したほうが良いかもしれません。「装蹄」となると全てのことを指します。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
変更していただければと思います。
私からですが、専門家(装蹄師等)とありますが、①のところに獣医師という言葉が入っていないのはなぜでしょうか。
肉牛の指針だったと思いますが、獣医師が記載されていたと思います。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平
牛の場合は、蹄の病気についての治療を行う場合を想定して、獣医師という記述を入れております。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
牛の場合は特別ですので、このままでよろしいでしょうか。
装蹄師に関しては、事務局で意図がある訳ではないでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
①では特に意識はしていなかったのですが、⑤や⑨の病気事故等に関しては、獣医師についての記述をしております。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴
「蹄に関する正しい知識と基本技術を身につけて」とありますが、基本技術のイメージが分かりません。どのような意味なのでしょう。
農家レベルの基本技術とは何なのでしょう。

社団法人日本装蹄師会 装蹄教育センター 装蹄研究課長 森 達也
削蹄は個人でやられている方がいますので、そういう方については、装蹄師が来る前にヤスリを使って自分である程度行っていただいたほうが、装蹄師も助かります。そこまでやっていただきたいという意味で入れました。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
「定期的に」という文言がありますが、他の畜種ではこの文言がいらぬのではないかという議論も出ていました。馬の場合はどうなのでしょう。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平
肉用牛の場合は、外で飼うのではなく舎内で飼う牛に対して、少なくとも1年に1回は行った方がよいということでした。少し牛とは飼い方も違いますので、馬についてはこのままでもよいのではないのでしょうか。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

栄養管理によって蹄の病気になることもあるので、装蹄師等と書いてありますが、ここに獣医師、装蹄師等と入れたほうが良いのではないかと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

わかりました。

定期的にとという文言についてはどうでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

馬は色々な場合があるので、このままの記述で良いのではないかと思います。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

使役に用いる馬においてですが、おいての後に「は」をつけたほうが良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

そうですね。

その他なければ次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-④について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

質問等ありますでしょうか。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

確認ですが、この文章は生産者向けの文章ということですよ。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

はい。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

生産者向けであれば、問題はないと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

それでは次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-⑤について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

質問等ありますでしょうか。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

胎盤の排出は重要ですので、入れたほうが良いと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

どのように記述すれば良いでしょうか。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

後産の胎盤の排出も重要ですが、種付けする方として一番心配するのは、後産が下に落ちているのを知らなくて、踏んで切れて胎盤が子宮に残るのが一番怖いです。

それで熱発して、種付け時期が遅くなるのが一番問題だと思います。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

先端が一番残りやすいので、排出された胎盤は必ず広げて見ますし、農家にも確認のために見てもらっています。記述に関しては、胎盤の停滞がないかを確認し、発熱等がないかという記載の仕方で良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

「注意する必要がある」という記述が後にあるので、「発熱等がないか確認する」の前に「胎盤の排出を確認し」との記述を入れてもらえれば良いと思います。それでは、次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-のについて説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

質問等ありますでしょうか。

私からですが、「注意する」とありますが、これは「注意し」にしたほうが良いと思います。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

初乳はとても重要であると言われていきますので、初乳について記述した方が良いのではないかと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

初乳と子馬の給餌については、2の栄養のところ記述しています。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

わかりました。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

離乳は特に書く必要はないと思います。「推奨される」と記述すると、人為的に離乳することを推奨することになってしまうような気がします。

アニマルウェルフェアの観点から、離乳は必要がないという方もいらっしゃいますので、少し気になりました。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

まき馬でも離乳は行います。

まき馬による放牧も飼養管理技術の一つですが、この場合でも、6ヶ月くらいできちんと離乳します。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

生産者によっては離乳しない人もいるという話を聞いています。

離乳はしなくても良いという意見もあるので、「人為的に離乳を行う場合は」という記述を追加した方がよいと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

「若齢時における離乳ほどストレスが大きいとされていることから、」の後に「人為的に離乳を行う場合は」と入れた方がよいということでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

そうですね。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

他になければ次の説明をお願いいたします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
(2-⑦について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
誰が去勢を行うということについて記載しないのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
はい。

生産者が行う事例もありますので、特に誰が行うかについては記載しておりません。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

「化膿等が見られる場合は、速やかに治療を行うこととする」という記述ですが、化膿がある場合は、獣医師の診療になると思います。

抗生物質は獣医師でないと買えないので。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

「化膿等が見られる場合は、獣医師と相談しながら適切に対応することとする。」という文章にすることで良いでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

⑧も同じようにしたほうが良いと思います。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

海外のガイドライン等に麻酔をしたほうが良いという記述はあるのでしょうか。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

重種馬においては鼻ねじによる枠場内保定で去勢が行われている現状があります。動物の管理面では、鼻捻棒を用いた確実な保定をして馬に対しても人に対しても安全に行い、馬に過剰なストレスを与えないように配慮するといった記述であれば良いのではないかと思います。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 事業企画係長 黒崎 和美

イギリスでは、麻酔薬の使用が義務づけられています。他の国に関しては特に記載はありません。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

肉牛の指針の検討委員会においても、除角の際に麻酔をすることについて議論になったのですが、何百頭もの除角や去勢を実施する際に麻酔を行う事は現実的でない面もあると思いますので、現在の記述で良いと思います。それでは、個体識別に進みたいと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-⑧について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

これは先ほどと同じように、「獣医師と相談しながら適切に対応することとする」という文言を入れた方が良いと思います。

個体識別については、なぜ烙印を入れたのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

乗用馬の生産地や十勝牧場では烙印を押しています。

肥育業者は腹に押していたりします。

日本ではあまり例はありませんが、入れ墨や、与那国では耳刻、肥育業者では耳標も見かけました。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

馬本来の特徴での個体識別については、白斑と旋毛を追加して「毛色、白斑及び旋毛」という書き方にさせていただければと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

他になければ次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-⑨)について説明)

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

「安楽死の処置をとることも検討することとする」とありますが、安楽死について言及する必要はあるのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

海外では、安楽死が重要視されていて、色々なガイドラインでも、治療で回復する見込みがないとなれば安楽死をとすることは必ず出てきます。

アニマルウェルフェアでの考えとしては重要と考えています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

アニマルウェルフェアの観点では、苦痛を与えない方法であれば、殺すということは問題ないのです。書き方がくどいというのは事実ですので、事務局で工夫していただければと思います。「病気・事故の記録を残し、発生頻度が高い場合は・・・」の部分は、順番を変えて記述した方が良いかもしれません。

それでは、次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-⑩)について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

質問等ありますでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 事業企画係長 黒崎 和美

肉用牛指針素案の検討会での話になりますが、全ての農家において、牛房が空いた際に洗浄を行うのは難しいのではないかと、それを踏まえて「洗浄」を削除して、「清掃」と記述することとして、「清掃及び消毒を行う」という記述に変更してはどうかとのご意見がありました。この点では、馬も同じではないかと考えています。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

肉用牛では、洗浄というイメージがないという意見があったのですが、馬も同じではないでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 事業企画係長 黒崎 和美

「洗浄及び乾燥」の「乾燥」は消毒という言葉の中にも含まれていると思いますので、「乾燥」も削除してもよろしいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

それでも意味は通じると思いますので、そのように変えていただければと思います。

次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2-⑪)について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
質問等ありますでしょうか。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男
ハエと同じように蚊の駆除を入れていただければと思います。
蚊は、日本脳炎やウエストナイルウィルスを媒介します。
もう一点ですが、ツバメも入れていただければと思います。軽種馬では永久磁石をおいてツバメが入らないようにしています。ツバメはウィルスを媒介しますので。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
蚊は入れていただければと思います。
ツバメに関しては、「鳥等」という形で入れさせていただければよろしいでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
分かりました。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇
「ネズミは施設の破損や漏電による火災」とした方がより生産者は、駆除しようと考えます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
そうですね。
あとネズミ等の「等」は何を指しているのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴
あまり思いつかないので、「等」はいらないと思います。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇
「設備」は消しても良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
そうですね。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
「ネズミは施設の破損や漏電による火災の原因となるので」でよろしいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
いいです。
それでは次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
2—⑫の説明

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
今のことにつきまして質問等ありますでしょうか。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五
5行目の「獣医師のアドバイス」の記述は重複するため、いらないのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
ご意見の通り、書き方がくどいので、5行目の記述については、「獣医師のアドバイス」を削除して「日頃から馬の基本的な行動様式」としたほうが良いのではないのでしょうか。

最後は「つながることを認識する必要がある」という記述を削除すれば良いでしょうか。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

記述を逆にすると良いかもしれません。

後ろを先に書いて、そのことが一の減少につながるという書き方でも良いと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

アニマルウェルフェアの理解の促進が、一につながって、一飼養することに寄与するとしたほうが良いかもしれません。

それでは次に進んでもよろしいでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(2 栄養について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

今のことについて質問等ありますでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

NRC と記載するだけで生産者の方は分かるでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

「NRC が定める養分要求量」と記載した方が分かりやすいかもしれません。

しかし、NRC は古いのではないのでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

一番新しいものは2007年のものです。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

「NRC が定める馬の養分要求量」という記載でよろしいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

NRC は競走馬で使うと、大きくなりすぎて脚を駄目にしてしまうという問題もありますが、農家段階では良いと思います。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

「粗飼料については、可能な限り不断給餌とし」との記述がありますが、私が経験した時は、馬のお腹が出てしまって見た目の悪い馬になってしまいました。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

アニマルウェルフェアの観点から言うと、不断給餌は悪癖を防止するという意味合いもあるので、この記述はあった方がよいと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

太りすぎの問題は、①のところでBCSでチェックすることと書いてあるので、それでいいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

いいと思います。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

給餌回数を増加させた方がよいというのは、いかがなものなのでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

朝、昼、夕、夜に分けることが良いのではないのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

一般農家へはそのように指導しています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

摂食時間を長くするというのもします。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

それでは、「不断給餌が出来ない場合は給餌回数を増加させるとともに給餌時間を長くすることが望ましい。」という記載でよろしいのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

良いと思います。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

「一度に大量の濃厚飼料を与えると、病気を引き起こす原因となるばあいもあることに留意する必要がある」とありますが、一度に大量の濃厚飼料を与えることはないので断定の表現としても良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

肥育の場合はどうなのでしょう。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

肥育でも行うことはありません。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

それでは、「一度に大量の濃厚飼料を与えると、病気を引き起こす原因となるばあいもあることに留意する必要がある」のうち、「留意する必要がある」という記述を削除し、「～となる場合もある」という表現でよろしいのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

はい。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

① の湿度等によって大きく影響されるという記述と同様に、警告的な文言にしても良いと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

農林水産省にお聞きしたいのですが、語尾の表現は、他の畜種で足並みを揃えているのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

各委員会にお任せしています。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

全体を通じて留意しなければならないというものは、断定的な語尾にしてしまってよろしいということでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

事務局で検討し、チェックしていただければと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明
分かりました。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇
ナトリウムは塩ですので、ナトリウムと記載するよりも「塩」と記載した方が分かりやすいと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明
「塩・カルシウムについても」と記述するということでよろしいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
子馬の場合は、銅等のミネラルが重要ですので、ミネラルの記述は残しておいた方がよいと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明
「塩・カルシウム等のミネラルについても適切に給与する必要がある」という書き方で良いでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
良いと思います。

家畜改良センター十勝牧場 業務第二課長 岡 明男
初乳のところですが、子馬の免疫グロブリンの吸収能力は、24時間と聞いています。「初乳とは、分娩後、数日間分泌される」の記述についてですが、「数日間分泌される」を削除し、「初乳には、母馬から子馬への免疫を伝達する役割を果たす免疫グロブリンが多く含まれる。」と書いたほうが良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
岡委員が言われた書き方で良いと思います。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉
初乳の後半の部分ですが、「子馬の行動をよく観察し、頻繁に乳に吸い付く、寝ている時間が短い等の場合は、母乳の不足を疑い」とありますが、この場合、母馬の健康状態が悪い場合が多いので、子馬に人工哺乳などの適切な処置をすることに加えて、「同時に母馬の健康状態に留意する」という一文がいないのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明
母馬についての記述を追加するというので、「母馬、子馬の行動をよく観察し」という書き方で良いでしょうか。また、「人工哺乳などにより、適切に対処する」という記述の後ろに、「母馬の健康状態にも留意する」という記述を追加するというので良いでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
はい。
他に質問がなければ次の説明をお願いします。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂
目次の2の⑤に「離乳」という項目がありますが、2については④初乳、子馬の給餌までしかありません。これは削除しても良いのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
良いと思います。
それでは説明を願います。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔
(3 飼養方式の説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
何か質問等ありますでしょうか。

全国公営競馬獣医師協会 会長 物江 貞雄
舎飼いの部分に多頭式の記述がないので、入れていただければと思います。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂
「単房式であれば、馬同士の闘争・競合は少ないが多頭式では、馬同士の闘争・競合が起きやすい」と記載した方が良いと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
他にはいかがでしょうか。

社団法人日本軽種馬協会 生産情報部長 伊藤 雅之
放牧方式の組み合わせについてですが、現在軽種馬では、昼間舎飼いで夜放牧が多いですので、入れていただければと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
加えて下さい。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五
それぞれの飼養方式の特徴については、牛などではどのように記載されているのでしょうか。運動要求が満たされないとありますが、書き過ぎではないかと感じます。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平
乳用牛の指針には、繋ぎ飼いの項目において、その特徴の1つに行動が制約されることにより運動不足になり、関節炎や睡眠不足になりやすいと書かれています。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂
運動欲求が満たされないのではなく、欲求不満になりやすいと思います。運動には限らなくて良いと思います。
運動に限ると違和感があるので、行動欲求が満たされなければ欲求不満が起こりやすいというほうが良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
もう一度お聞きします。
行動が制約されることにより、欲求不満になりやすいということが良いのでしょうか。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂
はい。
運動に対して欲求は、馬では科学的に確かめられていないので。
牛の肥育後期に運動させることは、ヨーロッパの基準でも明記されていなかったと記憶しています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司
肉牛の場合は、異常行動のことが記載されていたと思います。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 黒崎和美
肉用牛の指針素案では、飼養スペースが適当であるかどうかを判断していただくという観点から、舌遊び行動について記載しています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

「飼養方式」の厩舎構造の部分に、先ほど変更していただくこととなった、鳥と蚊を加えていただければと思います。

厩舎の通路については触れてはいないのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

触れていません。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

それでは、次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

(4 厩舎の環境、5 その他について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

なにか質問等ありますでしょうか。

肉用牛の指針の「熟環境」で問題になったところですが、馬の快適性と書くよりも、「体感温度」と書いた方が良いのではないかと思います。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

馬の体感温度とは、馬にとっての快適性ということの理解でよろしいでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

はい。快適性という言葉は、あまり明確に定義されていないのではないのでしょうか。

「体感温度」に変更した方が良いと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

わかりました。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

②で疾病と使っていますが、何か意図はあるのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

「哺乳」と「授乳」という言葉についても書き方が統一されていない部分もありますので、事務局で記述を確認させていただきます。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

7〜23度と温度の設定がありますが、他畜種でも記載されているのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

肉牛は10度くらいが適温域と記載されていたと思います。

子牛は問題が複雑なので、記述しないこととしました。

この温度設定は、どこからの引用なのでしょうか。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

快適と感じる温度は、サーモニュートラルゾーンという意味ではないのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

そうです。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

「馬の医学書」を引用しました。

馬が快適と感じる温度の範囲は7〜23℃で、13度が最適とされていると記載されています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

温度については、秦委員が生理学の講義をされていましたが、いろいろなゾーンで用語が決まっていて、サーモニュートラルゾーン、コンフォートゾーン、サーヴァイブゾーンという形で分かれています。うっかり使ってしまうと、批判を受けてしまうかもしれません。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

他の家畜では、おおむね何度〜何度が目安となるという記載がされています。例えば豚では、「豚にとって快適な温度域は、飼養ステージによって差はあるが、おおむね10度〜25度が目安となる。」と記載されています。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 事業企画係長 黒崎 和美

乳牛は、「成牛は10度〜20度が目安となる」と記載されています。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

豚は生産するのに良い温度がありますので良いですが、馬は乳量や増体を見る訳ではないので、違う部分はあります。

社団法人日本馬事協会 業務部主査 山下 大輔

「基本的に」を切って、「概ね」という言葉に代えれば良いでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

はい。
快適という言葉にも気をつけて下さい。
敷料の量については触れていないのでしょうか。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

適切な量は競走馬と肉用馬では全然違いますので。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

熟環境の下から2行目ですが、すきま風を防ぐのは当たり前ですので、その前に「敷料を増やす」とかを記載した方が良いと思います。
寒い時の保温対策のことについて話をしていると思いますので。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

厳寒期においては、「敷料を増やす及びすきま風を防ぐ等」という書き方でいいでしょうか。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

良いと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

照明の部分は、照明設備自体が問題なのではなくて、夜間の長期間の点灯が問題という解釈で良いのでしょうか。

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 秦 寛

そうです。主語が「夜間の長期間の点灯」になります。

社団法人日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

この記述については、軽種馬ではライトコントロールを行っていますので、少し違和感があります。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

書き方としては、馬の1日のリズムの前に、「夜間の極端な長時間の点灯は」と入れた方が良いと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

本題からは外れますが、危機管理マニュアルのひな形みたいなものはあるのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

何かあった時のために、考えておいて頂ければという意味で記載しています。

海外のガイドライン等にはマニュアルを作成することという記述が出てきますので他の畜種でもそれをそのまま引用してきています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

それでは、最後に、全体を通して何かありますでしょうか。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

今の農家にとって、アニマルウェルフェアとは、管理を徹底しなさいということになりますが、馬を飼っている農家にとって負担がきつ過ぎるのではないかと思います。

馬を飼っている農家に対して、生産を伸ばすような文言を入れていただければと思います。そうしなければ、経費ばかりがかかってしまい、実入りがいいようなことになるような気がします。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

基本的な考え方としては、アニマルウェルフェアの実行で負担は増えないと考えています。日常の管理の中で、事務的な負担はあるかもしれませんが、気をつけていただくポイントを記述しているものですので、実行していただいても経費の負担はないと考えています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

管理技術の向上の観点から見ると、明らかに疾病が減り、分娩間隔が短くなり、繁殖性が改善されるということですね。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

それに結びつく誘導出来るような書き方をしていただければと思います。

生産が活性化するような書き方が良いのではないかと思います。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

そのことごとにつながる書き方はされていると思います。例えば、一般原則の2番や2-⑫のところでも、生産性の向上について触れています。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

そのようなものがまとまって1つあれば、農家に説明しやすくなるのですが。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

重要な問題だと思います。農家に説明をしなければならないので。

歯であれば、歯をきちんと管理することにより、ウェルフェアに基づいて行えば、明らかに健康も良くなるということに繋がるという書き方が良いかもしれません。

ネガティブな考え方ではなくて、より健康になるという書き方を工夫していただければと思います。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

全ての項目を重視されることにより、生産性に関わってくるので、別の問題として最後に総論としてまとめることが出来れば、ガイドラインのまとめというようなものになるのではないのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

個別にここは書いた方が良くということの後日でも提案していただければ、そこに入れるようなことを考えることが出来ると思います。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

他の畜種と比較して見ていたのですが、動物の能力を発揮し生産性向上につながるという文言が他畜種の一般原則部分にはあるのですが、馬の一般原則部分にはありません。何か意図はあるのでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

馬には多くの用途があるため、生産性について書きにくかったということではないかと思います。しかし、生産性の向上については他の畜種では書いてあるので、鈴木委員のご意見を踏まえ、一般原則部分に生産性の向上について書き足すということで検討してもらえればと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

馬の生産性の改良は難しいので、より健康に疾病にもならず獣医を呼ばなくても良いということを明確に打ち出さなければと思います。ただ個別に書くというのは難しいと思いますので、これは事務局で一般原則に書くなどして検討していただければと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 近藤 誠司

他に質問等がなければ、今のことを含めまして、事務局で検討していただき本委員会でもんでいただければと思います。

進行を事務局にお返ししたいと思います。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

ありがとうございました。

今後のスケジュールとしては、1月に専門委員会で指針の最終検討、2月に推進委員会で指針の確定を行う予定です。

それでは最後に専務の倉澤よりご挨拶させていただきます。

社団法人日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

おかげさまで指針の取り纏めまで終わりました。

座長を務めて下さった近藤先生ありがとうございました。

今後のスケジュールについては、先ほど事務局から説明がありました通りでございます。

秋も深まって参りました。ご自愛の程を申し上げまして、挨拶とかえさせていただきます。

社団法人日本馬事協会 参与 栗本 共明

これで委員会を終了いたします。

ありがとうございました。